

重要

沈降精製百日せきジフテリア破傷風不活化ポリオ混合ワクチンを接種する前に内容をよく読み、十分理解してから接種をしましょう

■ 百日せき・ジフテリア・破傷風・ポリオについて

① 百日せき

百日せき菌の飛沫感染で起こります。

普通のかぜのような症状で始まり、咳がひどくなり、連続的に咳込むようになります。咳の後、急に息を吸い込むので、笛を吹くような音が出るのが特徴で、高熱は出ません。乳幼児の場合は、咳で呼吸困難になることが多く、チアノーゼ（血中の酸素が欠乏して皮膚が青黒くなる症状）や、けいれんが起ることがあります。潜伏期間は1～2週間です。

② ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。ジフテリアに感染すると症状が出るのは10%程度で、残りは症状の出ない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。

感染すると、高熱、のどの痛み、犬がほえるような咳、激しい嘔吐などが起こります。喉頭部の腫脹等によって窒息することもあります。潜伏期間は1～10日です。

③ 破傷風

土の中に潜んでいる破傷風菌が、傷口から体内に入ることにより感染して起こります。自分でも気づかない程度の軽い傷が感染の原因になることもあります。菌の出す毒素により、手足のしびれやけいれん、口が開かないなどの症状が起こり、その後の処置が遅れると命にかかわることもあります。潜伏期間は3日～3週間です。

④ ポリオ

ポリオウイルスがヒトの口に入ると腸の中で増殖します。増えたポリオウイルスは便の中に排泄され、再びヒトの口に入り免疫を持っていないヒトの腸内で増殖し、ヒトからヒトへ感染します。発病初期の症状は、発熱や頭痛、嘔吐等、風邪の症状に似たものです。

ポリオウイルスに感染しても、多くの場合は病気としての明らかな症状は現れずに知らない間に免疫ができます。しかし、ポリオウイルスが血液を介して脳や脊髄へ入り込むと、手足に麻痺を起すことがあります。潜伏期間は1週間～2週間です。

■ 4種混合ワクチンについて

（接種ワクチンについて）

平成24年11月1日より定期接種として導入されます。不活化ワクチンは、ウイルスを殺し抵抗力(免疫)をつくるのに必要な成分を取り出して毒性をなくしてつくられたものです。ウイルスとしての働きはないので、上記の疾患と同様の症状が出るという副反応はありません。このワクチンは製造工程でウシ由来成分等が使用されています。また薬液の成分として、リン酸水素ナトリウム水和物、リン酸二水素ナトリウム、塩化ナトリウム、水酸化ナトリウム、塩化アルミニウム、ホルマリン、エデト酸ナトリウム水和物、ブドウ糖、L-リシン塩酸塩、六水和物、水酸化アルミニウムゲル等が含まれています。

（四種混合ワクチンの効果と副反応）

予防接種を受けることで体内に免疫ができ、百日せき、ジフテリア、破傷風、及びポリオにかかることを防ぐことができます。ただし、予防接種を受けることで軽い副反応が見られることがあります。極めて稀に重い副反応が起こることがあります。

【主な副反応】

接種部位の局所反応（紅斑、硬結、腫脹）、発疹、発熱、下痢など

【稀に生じる重い副反応】

ショック、アナフィラキシー様症状（蕁麻疹、呼吸困難等）

血小板減少性紫斑病、脳症（発熱、手足の麻痺、意識障害等）、けいれんなど

■ 予防接種による健康被害救済制度について

定期予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が残るような健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。健康被害の程度に応じて、法律で定められた金額が支給されます。健康被害が予防接種によって引き起こされたものなのか、別の要因によるものなのかの因果関係を国の審査会で予防接種によるものと認定された場合には補償を受けることができます。

裏面に続く

■ 接種するに当たっての注意事項

- ① 接種当日は朝からお子さんの様子を観察し、普段と変わったところがないか確認してください。
- ② 予診票への記入内容は接種する医師への大切な情報です。接種当日責任を持って記入してください。
- ③ 予防接種の際には必ず保護者が同伴してください。保護者が同伴できない場合は、事前に委任状の申請を行い、委任された者が委任状を持って接種児に同伴してください。

● 接種を受けることができません

- ① 発熱がある場合（通常37.5℃以上）
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③ 受けるべき予防接種の薬液の成分によりアナフィラキシー（ひどいアレルギー反応）を起こしたことが明らかな場合
- ④ 上記に掲げるものの他、医師が予防接種を行うことが不適当な状態にあると判断した場合

● 接種を受ける際に注意が必要です

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害等で治療を受けている場合
- ② 予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、蕁麻疹などのアレルギーと思われる異常が見られた場合
- ③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある場合（事前に必ず主治医と相談しましょう）
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている場合及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる場合
- ⑤ ワクチンに含まれる成分にアレルギーがあるといわれた場合

■ 接種後の注意

- ① 予防接種を受けた後30分間は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐ連絡が取れるようにしておいてください。
- ② 予防接種後、不活化ワクチンでは1週間は副反応の出現に注意してください。
- ③ 接種部位は清潔に保ってください。入浴は差し支えありませんが、接種部位はこすらないようにしてください。
- ④ 当日は、激しい運動は避けてください。
- ⑤ 接種後、接種部位の異常反応や体調の変化、さらに高熱、けいれん等があった場合には、速やかに医師の診察を受けてください。

説明文を読んで、もし分からないことがあれば、接種を受ける前に市役所健康増進課や接種医に質問しましょう。必ず、納得された上で、お子さんに接種することを決めましょう。



